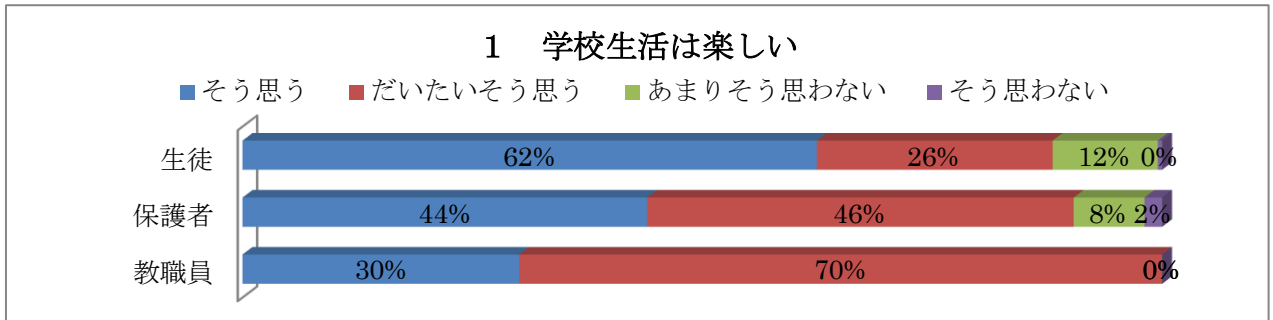


## 平成30年度後期学校評価

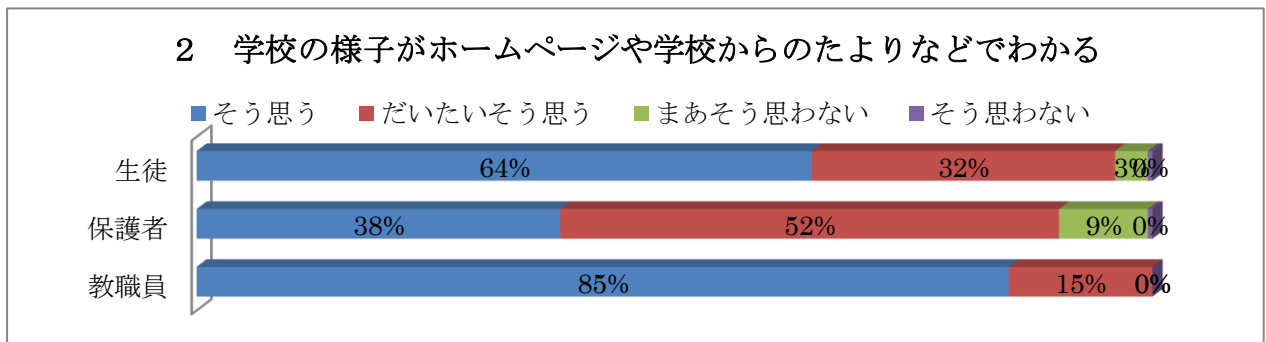
### 1. 分析結果と考察

- ① 設問1の「学校生活を楽しんでいる」では、生徒の88%及び保護者の90%が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」が12%、10%程度いる。このことから、授業が分からないから楽しくない生徒より、学級・学年・友人間がうまくできないために楽しくない生徒がいる。また、思春期ならでの個人的な悩みを抱えている生徒もいることも分かる。

次年度は、学級・学年の規範の徹底、生徒同士のコミュニケーション能力の形成、教師の分かる授業づくり、教職員のきめ細かな指導等を行っていく。

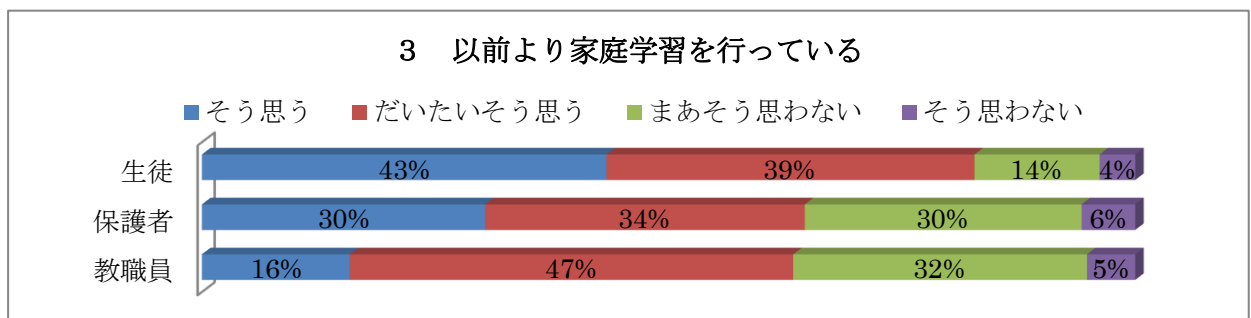


- ② 設問2の「ホームページや学校からのたよりなどで学校の様子分かる」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒、保護者、教職員とも90%以上であった。次年度も、ホームページの周知や閲覧する等のお願いをしていくとともに、たよりを保護者に見せない生徒がいるため、保護者に手渡す等の指導を徹底していく。



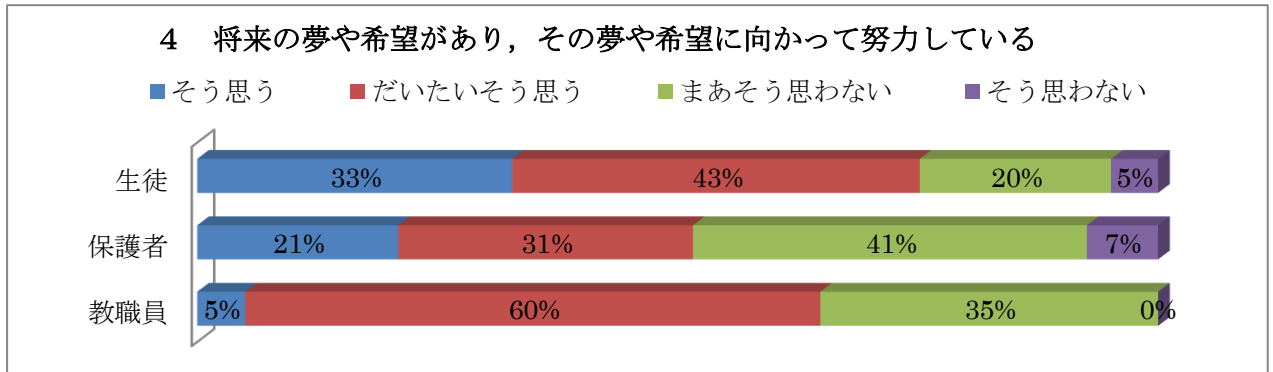
- ③ 設問3の「以前より家庭学習を行っている」では、生徒の「そう思う」「だいたいそう思う」が72%と、前期と同じ結果であった。しかし、「そう思う」生徒は31%から43%と大きく増加した。家庭学習に積極的に取り組む生徒の増加が数字にも表れてきた。一方、保護者は64%で前期よりは5%上昇したが、生徒との結果にだいぶ差が見られた。保護者の子どもへの期待を込めた結果の表れで、悲観的な数字ではない。

「そう思わない」と回答した生徒、保護者が若干いるが、その多くの生徒に夢や希望がなく、目指すものがない。次年度も、より一層キャリア教育を推進していく。



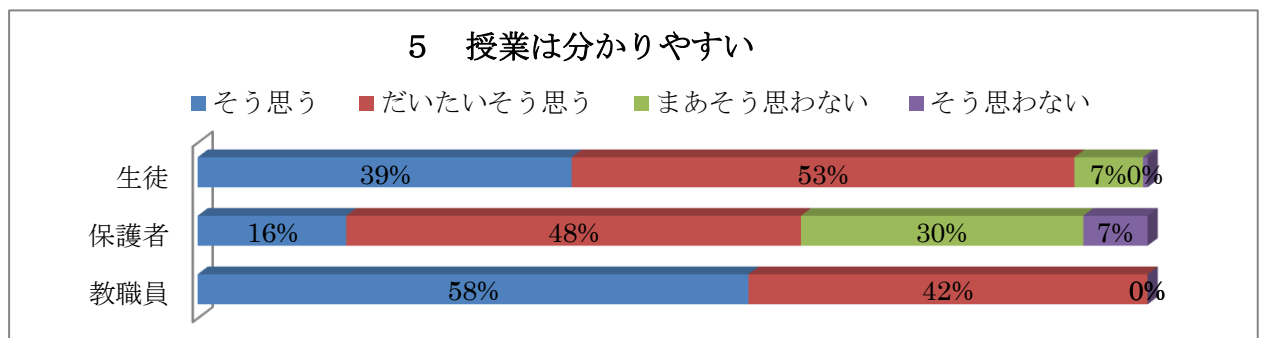
- ④ 設問4の「将来の夢や希望があり、その夢や希望に向かって努力している」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒では76%に対して、保護者は52%、教職員は65%であった。前期と同様に保護者の生徒への期待の大きさを痛感した。

「まだ夢が決まっていない」生徒の多くが計画的に家庭学習を行っていない。次年度も、道徳で夢を語り考える授業や、職業講話や職場体験活動を推進し、夢や希望に向かって努力をする気持ちを育てていく。



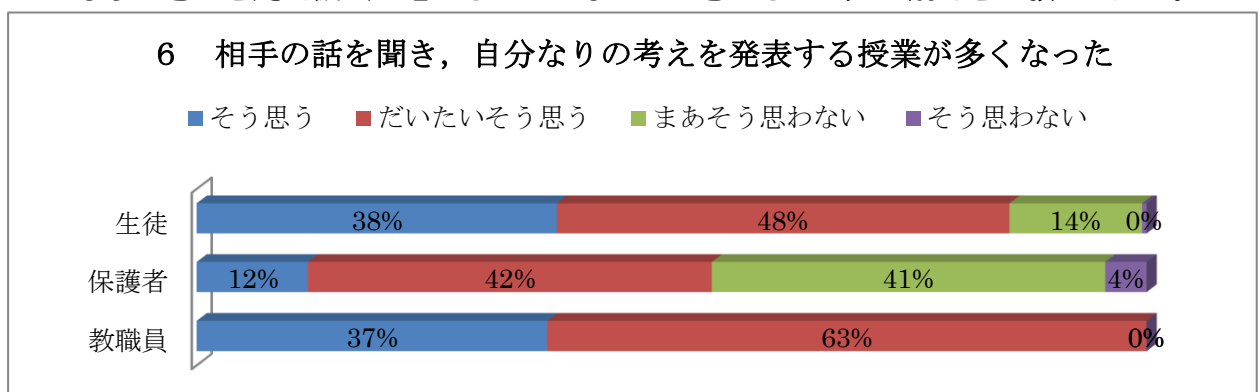
- ⑤ 設問5の「授業は分かりやすい」では、生徒の92%、教職員の100%が「そう思う」「だいたいそう思う」で、保護者は64%で生徒、教職員と大きな差があった。

教職員は授業で「ねらい」を明確にし、しっかりと「振り返り」を行い、「今日の授業のねらい」が分かるようにする。また、学習内容の定着にも力を入れる。保護者には、生徒が家庭学習を計画的に行っているかを指導していただくよう周知していく。



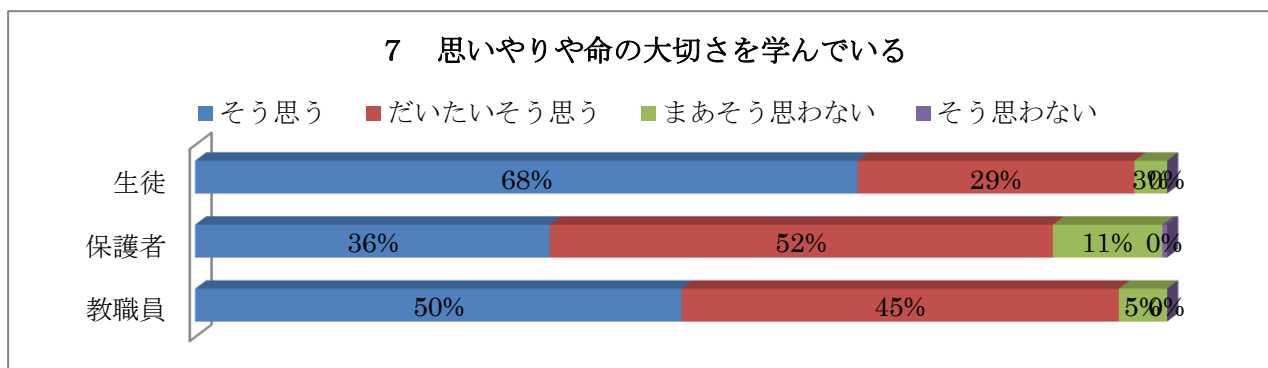
- ⑥ 設問6の「相手の話を聞き、自分なりの考えを発表する授業が多くなった」では、生徒は86%であるのに対し、保護者は54%であった。

授業や朝帰りの会等の場で意識的に考えを伝える場面をつくっているが、保護者にはその様子があまり伝わっていない。あるいは、家庭での会話に生徒なりの考えを聞く機会が少ない、ということが予想される。家庭での会話の機会を今以上に多くしていただくことで、生徒のなりの考えを聞く機会も増えるのではないかと考えるので、ご協力をお願いしたい。

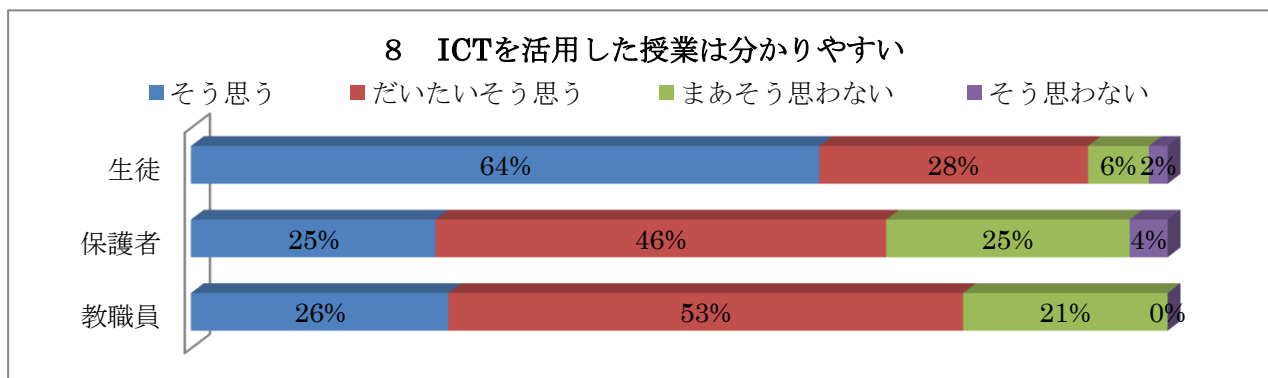


- ⑦ 設問7の「思いやりや命の大切さを学んでいる」では、生徒、教職員が90%以上、保護者が88%であった。

「思いやりや命の大切さ」は、学校と家庭が連携し、継続的に指導をしている表れである。次年度も、道徳の時間だけでなく、他の授業や日常生活でも“自他のかけがいのない命”について指導をしていく。

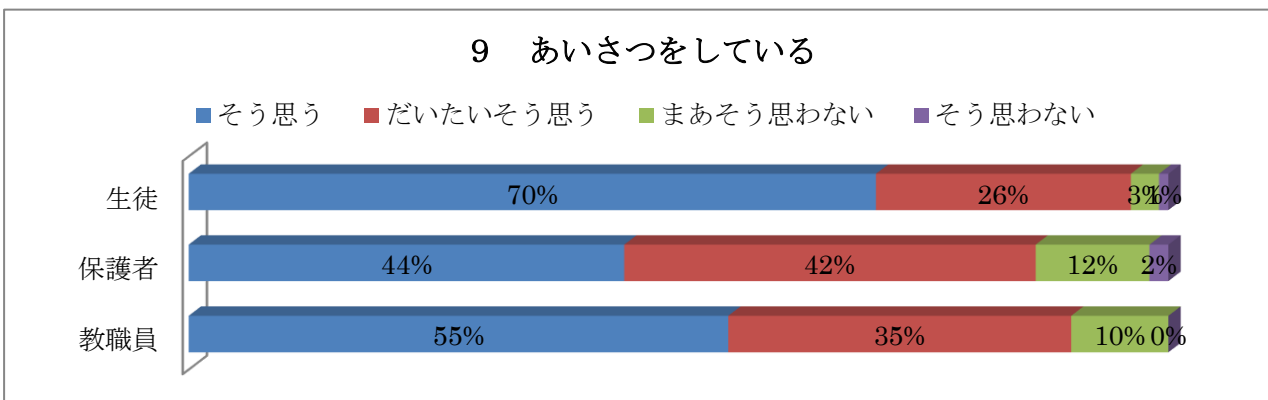


- ⑧ 設問8の「ICTを活用した授業は分かりやすい」では、タブレットや電子黒板等を活用した授業を行っている教科は、生徒の評価は92%もあり、活用の良さが表れている。しかし、まだ各教室にインターネットに接続できる十分な環境が整っていなかったため、ICTを活用した授業実践を行っていない教科が半数以上あった。次年度は必ず1教師1回以上、ICTを活用した授業づくりを行っていく。(教室等でのインターネット使用は3学期よりの予定)



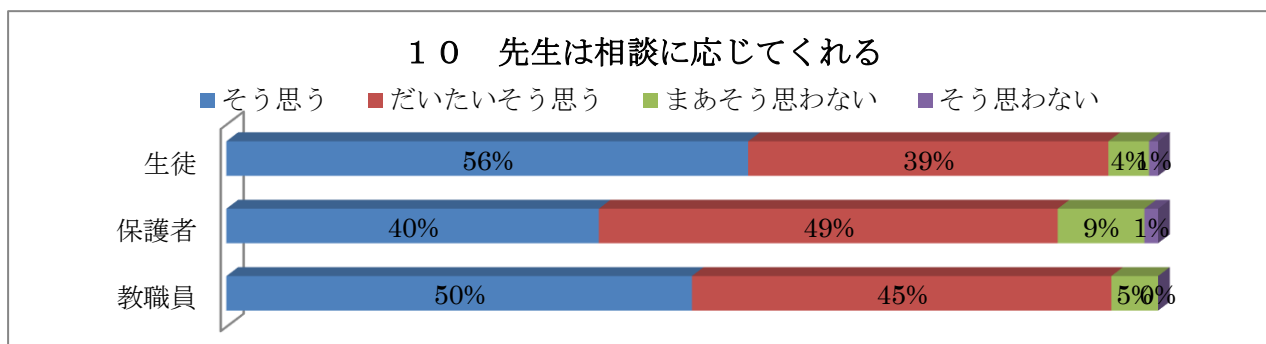
- ⑨ 設問9の「友達や地域の方へあいさつができています」では、生徒の96%、教職員の90%、保護者の86%が肯定的な回答をしている。

これは、生徒会執行部や生活委員会を中心に様々な取組を行い、日頃からのあいさつ運動に取り組んでいる成果である。次年度も、気持ちのよいあいさつが地域の知人に対してもできるよう取り組んでいく。



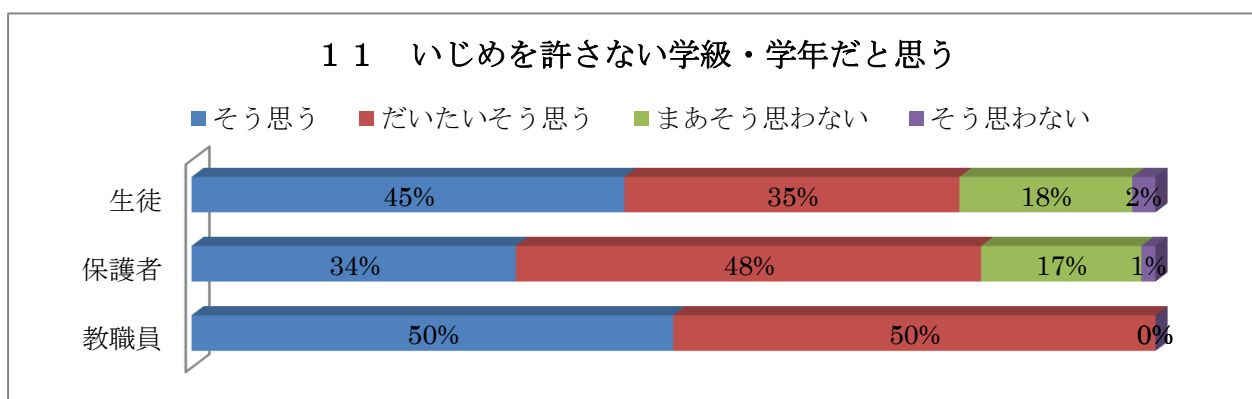
- ⑩ 設問10の「先生は相談に応じてくれる」では、生徒の95%、保護者の89%が肯定的な回答をした。

しかし、この設問は限りなく100%に近づきたい。TT授業でのきめ細かな指導、すみよしタイムの運用方法、日常の声かけ、生活ノートの活用等今まで以上に相談に応じる体制づくりを学校全体で組織的に行い、相談しやすい環境づくりに力を入れていく。



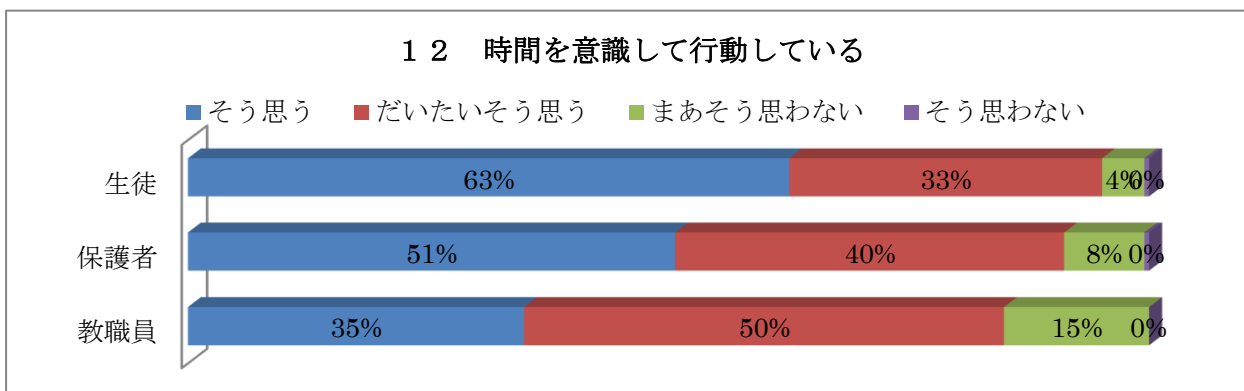
- ⑪ 設問11の「いじめを許さない学級・学年だと思う」では、生徒の80%、保護者の82%が肯定的な回答であった。しかし、生徒の意見の中には、「いじめやトラブルがある」「からかいが多い」というものもあった。これからも指導を徹底していく。

この設問も⑩と同様に、限りなく100%に近づきたい。道徳や特別活動の時間での指導、TT授業でのきめ細かな指導、すみよしタイムの運用方法、日常での声かけ、生活ノートの活用等今まで以上に相談に応じる体制づくりを学校全体で組織的に行い、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいく。また、学級が「心の居場所」となるよう学級担任を中心に、学級づくりに力を入れる。



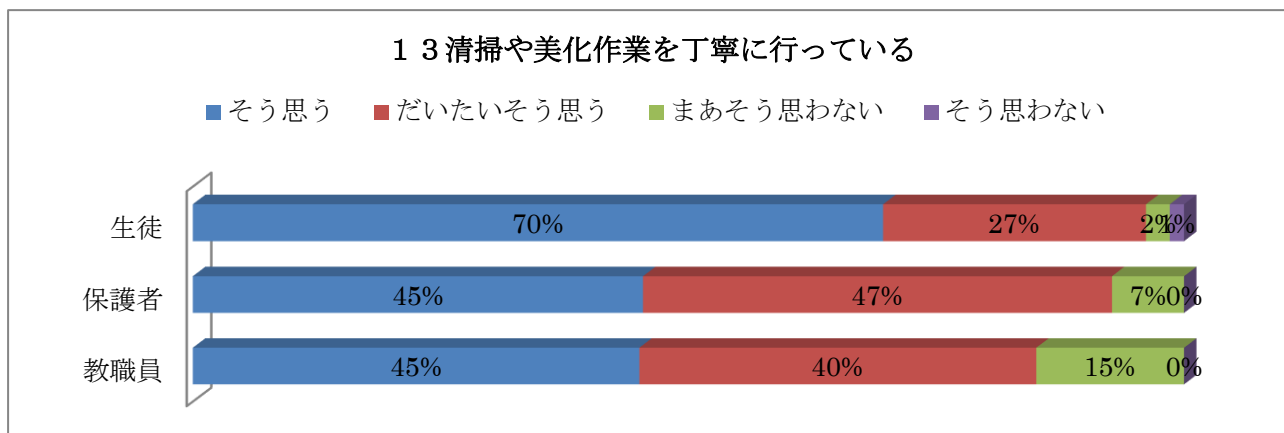
- ⑫ 設問12の「時間を意識して行動している」では、生徒の96%、保護者の91%、教職員の85%が肯定的な回答をしている。

次年度も、「都留一中生4つの規範」を浸透させ、凡事徹底に努めていく。



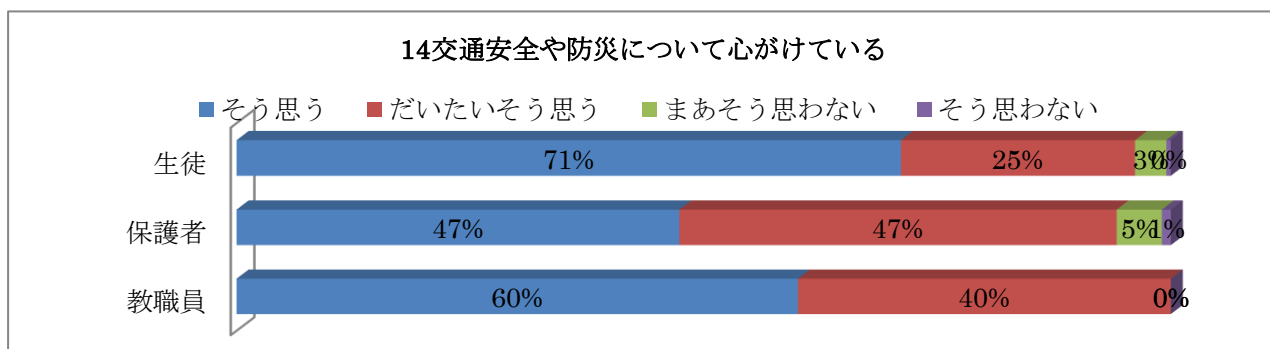
- ⑬ 設問13の「清掃や美化作業を丁寧に行っている」では、生徒の97%、保護者の92%、職員の85%が肯定的な回答をしている。

⑫の設問と同様に、「都留一中生4つの規範」を浸透させ、清掃や美化作業を黙々と行うよう指導を続けていく。



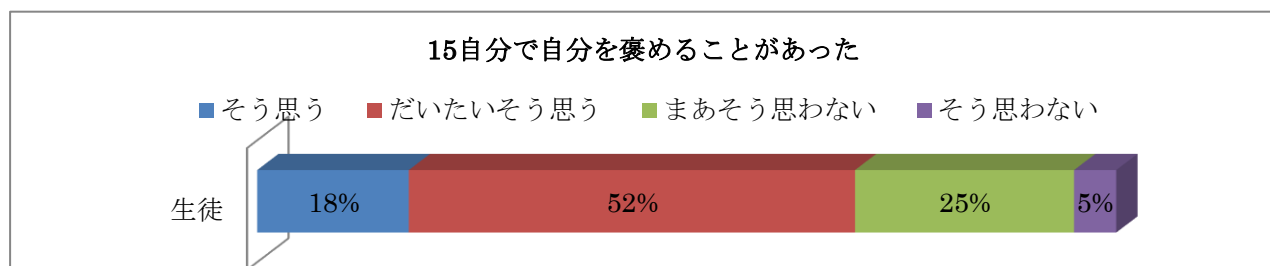
- ⑭ 設問14の「交通安全や防災について心がけている」では、生徒の96%、保護者の94%、教職員の100%が肯定的な回答をしている。

これまでの交通安全指導や防災避難訓練などを日常的に実施してきた成果だと考える。これからも、「お父さんやお母さんから授かった命を守る」という高い意識を持たせる指導や、安全点検等による危険箇所の把握、最近頻発している自然災害への備えや対応等日常の指導の充実に努めていく。



- ⑮ 設問15の「自分で自分を褒めることがあった」は、生徒のみの質問である。「そう思う」と答えた生徒が18%、「だいたいそう思う」と答えた生徒が52%で7割を占めている。「まあそう思わない」と答えた生徒が25%、「そう思わない」と答えた生徒が5%で3割であった。

3割の生徒は、自身のよいところや自分の行動が認められていないと感じている。学級の日常生活や、部活動、委員会等で活躍の場をつくり、ほめる指導を行い、自己肯定感や自己有用感を高めていく。



## 2. 成果と課題

### (成果)

多くの質問で肯定的な回答が得られ、家庭でも、保護者の方が学校をフォローしていることが分かった。また、あいさつ・時間・清掃・美化作業など「都留一中生の4つの規範」を意識し、取り組んでいることが分かった。中でも、家庭学習に主体的に取り組む生徒が10%以上増えたことは、大きな成果であった。次年度もさらに推進していく。

### (課題)

「夢や希望がない」生徒の多くが、家庭学習が定着していなかったり、授業が分からないと回答したりいる。そのため、学力未定着の一因になっている。「夢や希望がない」生徒にどうアプローチしていくか、次年度も検証していく。

「学校の様子や授業、発表」の質問に対して、やや保護者の評価が低かったが、家庭で学校のことを話さないと愚痴を漏らしている保護者も少なくない。学校としては、今まで以上に情報発信に取り組むとともに、家庭でも学校のことを話題としていただけるようさらなる声かけをお願いしていく。

また、「相談・いじめ」についての評価で「あまりそう思わない」という評価が見られた。学校として100%肯定的回答になるよう、次年度も継続して取り組んでいく。

「ICT」については、昨年度タブレットが本校に導入されたが、インターネットに接続できる環境整備がまだ整っていない。次年度環境整備に取り組むとともに、さまざまな場面で活用し、「ICT」の良さを生かした授業づくりを行い、生徒の学力向上に努めていく。

「自己肯定感」については、日々の活動の中で生徒の行動のよい点を褒め、認め、自己肯定感や自己有用感を高めていく。